

第2回梨花女子大学・ルース国際セミナーに参加して

理学専攻・数学領域・博士後期課程1年

榎吉奏子

Ewha-Luce 国際セミナー2016 は、生涯を通じて活躍し続ける女性科学者を育成するためのプログラムである。STEM 分野を専攻している大学院生が18日間寝食を共にし、リーダーシップ、エンパワーメント、ネットワーキングに関する講義、セミナー、ワークショップを受講した。今回は米国から10人、韓国から8人、日本から2人、台湾から1人、インドネシアから1人の学生が参加した。目白押しのプログラム内容を通じて、セミナーの副題である”Expanding Horizons”を自分自身の中ではっきりと感じることができた。特に、参加者一人一人に発表の機会が与えられたオープンフォーラムと、韓国について学ぶ様々な活動によって私は大きく成長したように思う。

まずは、オープンフォーラムについて振り返る。私たちはセミナーに参加する2ヶ月ほど前から、「科学史における目指すべき女性」、「科学と社会的責任」、「科学の現在と未来」という3つのテーマからそれぞれが1つを選び、小論文を執筆し、発表準備を行った。さらに現地で効果的なプレゼンテーションの仕方について学び、グループに分かれて練習を積み重ねた。それまで私は、英語で人前で話すことに大きな壁を感じていたのだが、「あなたの英語は完璧だし、内容もよくまとまっているわ。あとは自信を持って堂々と話すだけよ！」と同年代の米国の学生たちにお墨付きをもらってからは、その壁は低くなった。そしてオープンフォーラム当日は、身振り手振りを交えつつ、聴衆一人一人の目を見て落ち着いて発表することができた。その後の休憩時間に、文字通り全員から、「Kanakano、やったね！最高の発表だったよ！」と褒められたので、もはや壁を感じることはなくなった。最終日にもグループの代表として発表をし、さらなる経験を積めて良かった。

このセミナーの特色は、大学内での座学だけではなく、韓国内の様々な場所に出かけて、韓国の文化、風習、歴史について学ぶ機会が数多く設けられていた点にある。具体的には、ハングル文字の学習と書道体験、伝統芸能鑑賞、テコンドー体験、北朝鮮との国境沿いの非武装地帯訪問、ソウル市内ツアー、2泊3日の慶州・釜山探訪、アモーレパシフィックの工場見学などの活動をした。韓国の人々の北朝鮮に対する考えを実際に聞いたり、慶州の寺で半日の僧侶体験をしたりすることで、韓国についてより深く知ることができた。参加者間の親睦も日に日に深まり、出身国の違いから生じる物事の考え方や見方の違いも分かっていった。それにより、当たり前だと思ってしまう日本人の考え方や行動様式も新しい視点から捉えられたように思う。

今回のセミナーで、積極的でエネルギッシュな米国や韓国の学生の姿を目の当たりにして大きな刺激を受けた。彼女たちとの再会を楽しみにしつつ、今後もあらゆる面において自らを高めていきたい。

以下のHPに写真が多数掲載されています。ご覧ください。

<http://womeninstem.ewha.ac.kr/x/photos>